

## 人文学部教員研究業績一覧（2022.1.1-12.31）

### Academic Achievements in 2022: Faculty of Arts

凡例：

氏名

①著書

②論文・研究ノート

③翻訳

④芸術創作

⑤書評・随筆

⑥学会・研究会等での報告

⑦その他

金井 直

- ① 1)『彫刻 2』（「死後」の隣景」 pp.176-217）書肆九十九、608頁〔共著〕 2)『像をうつす～複製技術時代の彫刻と写真』赤々舎、200頁〔単著〕
- ② 1)「『カノーヴァの墓』（1827年）をめぐって」（『信州大学人文科学論集』9(2)、pp.1-19）〔単著〕 2)「ボテロの彫刻」（『ボテロ展 ふくよかな魔法』展覧会図録、pp.157-160）日本テレビ放送網、186頁〔単著〕
- ⑤「版をつくる、遊ぶ、奏でる 武井武雄と常田泰由」（『めくる、ひろがる 武井武雄と常田泰由の本と絵と』展覧会図録、pp.68-69）太田市美術館・図書館、80頁〔単著〕
- ⑦ 1) 講座「あづみのミュージアム講座」（安曇野市役所、11月11・25日）〔共同〕 2) トーク「写真と彫刻 作家と研究者の視点から」（豊田市美術館、12月11日）〔共同〕

北村明子

- ④ 1) *Echoes of Calling -gushland-*、2月18日～20日、3月19日～3月27日（映像配信）、スパイラルホール、文化庁文化芸術振興費補助金、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、令和2年度港区文化芸術活動サポート事業助成事業、〔演出・振付・構成〕 2) *Idomeneo RE DI CRETA*、7月6日～22日、FESTIVAL D'AIX-EN-PROVENCE Music Festival 主催、Palais de l'Ancien Archevêché、演出：宮城聡〔振付〕 3)「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン2022」、7月20日～7月24日、KAAT 神奈川芸術劇場主催；8月14日、久留米シティプラザ；8月23日～24日、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT〔演出・振付・構成〕 4) *Echoes of Calling -gushland-* 2022年ウズベキスタン版、11月21日～22日、ウズベキスタン州立大学芸術文化研究所劇場、ウズベキスタン州立大学芸術文化研究主催／*Echoes of Calling -gushland-* 2022年アイルランド版、11月26日、The Mick Lally Theatre、Galway Dance Project 主催、国際交流基金助成事業〔演出・振付・構成・出演〕

- ⑦ 1) 「クリエーション&リサーチ」 4月29日～5月8日、京都芸術センター、京都国際ダンスワークショップフェスティバル2022主催 [クリエーションワークショップ講師担当]  
 2) ワークショップアラカルト、9月21日、彩の国さいたま芸術劇場大スタジオ、公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団（彩の国さいたま芸術劇場）主催 [ワークショップ講師担当]  
 3) Echoes of Calling project ワークショップ、11月22日、ウズベキスタン州立芸術文化研究所劇場、ウズベキスタン州立芸術文化研究所主催 [演出・振付・構成・出演] 4) Echoes of Calling project ワークショップ、11月25日、The Mick Lally Theatre（アイルランド）、Galway Dance project 主催 [演出・振付・構成・出演] 5) 「万物は語る」No.6 「身体」千葉市美術館 大小島真木コレスポンダンス 関連トークイベント、12月23日、千葉市美術館主催 [共同]

#### 濱崎友絵

- ⑥ 1) 「歌、ネイション、ホームランド」（シンポジウム「トランスナショナル時代の人間と「祖国」の関係性をめぐる人文学的、領域横断的研究」、5月29日、京都大学）[共同・パネリスト（招待）] 2) 「A. A. サイグンの民俗音楽研究——バルトークとの交差を射程に」（日本音楽学会第73回全国大会、11月27日、西南学院大学）[単独]  
 ⑦ 1) NHK ラジオ出演 ちきゅうラジオ／特別企画「トルコ音楽にビーム！」（4月3日）  
 2) 「クルド音楽への誘い：声、響き、そして記憶」トルコ語通訳（セルダル・ジャーナン氏 東京藝術大学音楽学部特別講座、東京藝術大学、7月19日） 3) 長野朝日放送出演（案内役）「秘蔵映像で紐解くセイジ・オザワ 松本フェスティバル 魂の30年」（11月23日）  
 4) 科学研究費基盤研究(C)「ドイツにおけるトルコ系移民の音楽伝承メカニズム」（課題番号：19K00130）研究代表者 5) 科学研究費基盤研究(C)「本伝統文化の継承者：その社会階級・社会階層と地域社会での社会関係資本に着目して」（課題番号：20K02149）研究分担者 6) 『音楽大事典』（平凡社）改訂版編集委員（継続） 7) 東洋音楽学会機関誌『東洋音楽研究』編集委員 8) セイジ・オザワ 松本フェスティバル実行委員（継続） 9) 一般財団法人松本市芸術文化振興財団 評議委員（継続） 10) 安曇節作詞実行委員（継続）

#### 早坂俊廣

- ② 1) 「邵廷采と全祖望（上）」（『信州大学人文科学論集』第9号第2冊、pp.21-41）[単著] 2) 「邵廷采と全祖望（下）」（『信州大学人文科学論集』第10号第1冊、pp.1-27）[単著]  
 ③ 陽明後学会語研討会「韓夢鵬『新安理學先覺會言』 訳注 其の一」（『白山中国学』通巻28号、pp.1-22）[共著]  
 ⑥ 1) 「“止”的倫理学、“陽明文化的当代価値” 學術研討会（中国貴州省貴陽市）、8月5日（論文寄稿・ビデオ発表）[単独] 2) 「羞恥の倫理学、“儒学与廉潔文化建設” 国際學術研討会暨江蘇省儒学学会年会2022（中国江蘇省南通市）、8月28日（論文寄稿・ビデオ発表）[単独]

三谷尚澄

③クワメ・アンソニー・アッピア『コスモポリタニズム——「違いを越えた交流と対話」の倫理』、みすず書房 [単独訳]

⑥ 1) 「山はいつでも歩いている——「プラグマティストの形態における表出主義」と道元」(比較思想学会第49回大会シンポジウム「道元と分析アジア哲学」、6月18日、信州大学) [単独]

⑦ 1) 「特別座談会 じんぶんゆく年くる年2021——松本にイーハトヴを求めて」(「地域とともに創る学び合いの場」年度末特別企画、2月16日、高橋家住宅(松本市重要文化財))

2) 「特別座談会 じんぶんゆく年くる年2021——松本にイーハトヴを求めて(『地域とともに創る学び合いの場 文化芸術教育資源を活用した、まちなか活性化手法の確立と発展をめざして 2021年度活動報告書』、信州大学人文学部、pp.5-17) 3) 「コスモポリタニズムと大学のいま」(信州大学人文学部後援会総会、11月27日、信州大学) [単独] 4) 科学研究費補助金(基盤研究C)「表出主義的プラグマティズムの哲学的可能性/セラーズ・ブランドム・プライスを中心に」研究代表者 5) 科学研究費補助金(基盤研究C)「『できなさ』の比較哲学: パルネラビリティ思潮と融通念仏思想」研究分担者 6) 日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」(学術知共創プログラム)「よりよいスマート WE を目指して——東アジア人文社会知から価値多層社会へ」研究分担者

⑦ 1) 「特別座談会 じんぶんゆく年くる年2021——松本にイーハトヴを求めて(『地域とともに創る学び合いの場 文化芸術教育資源を活用した、まちなか活性化手法の確立と発展をめざして 2021年度活動報告書』、信州大学人文学部、pp.5-17) 3) 「コスモポリタニズムと大学のいま」(信州大学人文学部後援会総会、11月27日、信州大学) [単独] 4) 科学研究費補助金(基盤研究C)「表出主義的プラグマティズムの哲学的可能性/セラーズ・ブランドム・プライスを中心に」研究代表者 5) 科学研究費補助金(基盤研究C)「『できなさ』の比較哲学: パルネラビリティ思潮と融通念仏思想」研究分担者 6) 日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」(学術知共創プログラム)「よりよいスマート WE を目指して——東アジア人文社会知から価値多層社会へ」研究分担者

護山真也

① *Routledge Handbook of Indian Buddhist Philosophy*. Ed. William Edelglass, Pierre-Julien Harter, Sara McClintock, New York: Routledge 2022. [Chapter 32: Prajñākaragupta: Buddhist Epistemology as the Path to the Wisdom of Non-duality, pp. 528-539を分担執筆] [共著]

② 1) Prajñākaragupta's Criticism of the Proof of God's Existence (II): A Critical Edition and an Annotated Translation of the *Pramāṇavārttikālaṅkāra* ad *Pramāṇavārttika* II 17-28, *Prajñākaragupta Studies* 2, pp. 139-177 [単著] 2) 「ジュニャーナシュリーミトラ著『ヨーガ行者の確定』和訳研究(中)」(『南アジア古典学』17, pp.137-159) [単著] 3) 「プラジュニャーカラグプタの苦諦論(2)—*Pramāṇavārttikālaṅkāra* ad *Pramāṇavārttika* II 150-159の和訳研究—」(『信州大学人文科学論集』10-1, pp.29-48) [単著] 4) Another look at a fragment of Aviddhakarṇa's proof of God. In: E. Prets (ed.), *Transmission and Tradition*. Vienna: Academy of Austrian Academy of Sciences Press, pp. 65-80.

⑤ 1) 「未来の仏教倫理学のために」『未来哲学』4, pp.53-59 [単著] 2) 「討議: もう一つの仏教を掘る」(提題: 一色大悟, 討論者: 山内志朗, 坂本貴志, 護山真也, 小村優太)『未来哲学』4, pp.44-61 [共著]

⑥ 1) Dharmapāla and Dharmakīrti on the Refutation of a Proof of the Sāṅkhya Dualism ("Reading Dharmapāla and Bhāviveka" Workshop, 1月8日, 国立政治大学, 台湾, オンライン発表) [単独] 2) Dharmakīrti and Jñānaśrīmītra on the object of yogic perception (The 6th International Dharmakīrti Conference, 8月23日, 東国大学, 韓国, オンライン発表) [単独] 3) 「色即是空」のアボリアー鳩摩羅什と玄奘による『般若心経』の翻訳を

めぐって」(未来哲学研究所第5回シンポジウム「世界哲学における翻訳の問題——翻訳とは誤読の温床か、それとも新しい思想の芽生えか」における提題発表, 9月1日, 東アジア藝文書院, 東京大学, オンライン発表) [単独] 4) Introduction to Prajñākaragupta's examination of the truth of suffering (International Workshop on Religion and Philosophy in India (I): Prajñākaragupta on the Truth of Suffering における研究発表, 2022年9月20日, 北海道大学) [単独]

⑦ 1) 比較思想学会第49回大会(6月18・19日, 信州大学) 実行委員長 2) 「仏教思想入門」(NHK 文化センター松本教室講師, 4月22日・5月20日・6月24日・7月22日・10月28日・11月25日・12月23日, NHK カルチャー松本教室)

菊池 聡

①『カルト・オカルト 忍びよるトンデモの正体』あけび書房, 全216頁(第2部第1章“トンデモ”を信じてしまう心の仕組み メタ認知的クリティカル・シンキングのすすめ, pp. 120-131.) [共著]。

② 1) 「批判的思考態度によるレポート文書特徴に関する一検討」(『信学技報』121, 75-78) [共著] 2) 「人はなぜ陰謀論にハマるのか」(『Journal of Japan Skeptics』30, 13-23) [単著] 3) 「マップアプリケーションを用いた防災マップ作成の試み」(『信州大学地域防災減災センター活動報告書2022版』, 112-115) [共著] 4) 「疑似科学を題材とした批判的思考促進の試み」(『国民生活研究』62-2, 22-37) [単著]

⑤ 「性格占いを信じてしまう心理」(『心の健康ニュース (少年写真新聞)』9月8日, 第504号) [単著]

⑥ 1) 「フルオンライン学習環境でのオンライン討論参加による批判的思考態度育成への学習者特性」(日本心理学会第86回大会, 9月8日, 日本大学文理学部) [共同] 2) 「だまされる心の心理学 思い込みに陥らないためのクリティカル・シンキング」(日本産業カウンセラー協会関西支部, 1月10日) [単独] 3) 「あやしい情報にまどわされないために～コロナ禍での思い込みの心理学～」(京都小児科医会・子育て支援シンポジウム, 10月15日) [単独]

⑦ 1) 「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座: 学都松本・教育100年を語る会講師, 2月20日, 松本市あがたの森文化会館) [単独] 2) 「防災減災のための心理学 緊急時の心理バイアスを理解する」(松本地域振興局・防災啓発研修講師, 3月4日, 松本地域振興局) [単独] 3) 「防災減災のための心理学」(信州大学出前講座: 安曇野市細萱地区自主防災会講師, 3月9日) [単独] 4) 「錯覚の不思議な世界・ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座: 岡学園デザインスクールフォーラム講師, 5月27日, 長野市岡学園デザインスクール) [単独] 5) 「なぜ疑似科学を信じるのか」(SSH 講演会講師, 6月9日, 長野県立飯山高等学校) [単独] 6) 「ポジティブに生きるための心理学」(電機連合長野支部キャリアアップセミナー講師, 6月11日, 松本市勤労福祉会館) [単独]

7) 「いざという時、逃げる勇気を 防災減災の心理学」(岡谷市防災講演会講師, 7月2日, 岡谷カノラホール) [単独] 8) 「災害時の逃げ遅れを防ぐ心理学」(信州大学出前講座: 松川町自主防災リーダー研修会講師, 7月7日, 松川町中央公民館) [単独] 9) 「ポ

ジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座：天龍峡夏期大学講師，7月27日，飯田市川路公民館) [単独] 10) 「だまされる心の心理学」(信州大学出前講座：中野市公民館さんさん講座講師，7月28日，中野市中央公民館) [単独] 11) 「受験期を乗り越えるためのメンタルとは」(信州大学出前講座：諏訪清陵高等学校3年生講演会講師，8月25日) [単独] 12) 「だまされる心の心理学」(信州大学出前講座：篠ノ井老人福祉センター講座講師，10月13日，かがやきひろば篠ノ井) [単独] 13) 「心の健康～ポジティブに生きよう～」(信州大学出前講座：10月14日，松本市丸ノ内中学校) [単独] 14) 「探究学習でよりよく考える力を身につけるために 研究・取材・調査・論文執筆でのクリティカル・シンキング入門」(諏訪清陵高等学校附属中学校2年生特別授業講師，11月10日) [単独] 15) 「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座：宮田村公民館講座梅の里大学講師，12月8日，宮田村民会館) [単独] 16) 「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座：赤穂高校特別授業講師，12月14日，長野県赤穂高校) [単独]

佐藤広英

② 1) Construction of a support tool for user reading of privacy policies and assessment of its user impact. Proceedings of the 8th International Conference on Information Systems Security and Privacy (ICISSP2022), 412-419. [共著] 2) The privacy consciousness of the undergraduate students: Comparison between Turkey and Japan. Florence Nightingale Journal of Nursing, 30(3), 253-258. [共著] 3) 「顔の自撮りを加工することが自尊心およびポジティブ気分に及ぼす効果」、『パーソナリティ研究』30(3), pp.127-129 [単著] 4) 「プライバシーポリシーの内容を確認する状況の整理」、『信州大学人文科学論集』9(2), pp.43-52 [共著] 5) 「オンライン掲示板コミュニケーションにおけるファシリテーション的介入効果の実験的検討：科学トピックを例にして」、『日本教育工学会論文誌』46(1), pp.183-191 [共著] 6) 「マップアプリケーションを用いた防災マップ作成の試み」、『信州大学地域防災減災センター報告書』, pp.112-115 [共著]

⑥ 1) 「プライバシー情報提供可否に関する調査：経年変化に関する考察」(暗号と情報セキュリティシンポジウム2022 (SCIS2022)、グランキューブ大阪、1月18日) [共同] 2) 「eスポーツの印象に影響を及ぼす要因の検討」(日本教育心理学会第64回総会、オンライン、8月10日－9月10日) [共同] 3) 「潜在連合テストを用いたスマートフォン依存傾向の評価」(日本心理学会第86回大会、日本大学文理学部、9月8日) [共同] 4) 「フランス人および日本人学生における食品の「健康さ」と「おいしさ」の潜在連合：これら二つの次元と自己申告された食行動との関係」(日本心理学会第86回大会、日本大学文理学部、9月9日) [共同] 5) 「SNS上の安心さがしに対する行動反応の検討：安心さがしに対してどのような行動をとるか」(日本心理学会第86回大会、日本大学文理学部、9月10日) [共同] 6) 「SNS上の安心さがし行動に対する感情反応の検討：安心さがしされるとどのような気持ちになるか」(日本社会心理学会第63回大会、京都橘大学、9月14日) [共同] 7) 「プライバシー次元尺度改訂版の作成」(日本パーソナリティ心理学会第31回大会、沖縄県市町村自治会館、12月4日) [共同] 8) 「プライバシー意識と自己愛傾向の関連」(日本パーソナリティ心理学会第31回大会、沖縄県市町村自治会館、12月4日) [共同]



- ⑦ 1) 国立研究開発法人情報通信研究機構ネットワークセキュリティ研究所セキュリティ基盤研究室・招へい専門員 2) 日本心理学会・教育研究委員会委員 3) 日本パーソナリティ心理学会・学会誌編集委員会常任委員 4) 日本老年社会科学会・査読委員 5) WebLab 研究会・メディア・情報・コミュニケーション研究編集委員 6) 「潜在連合テストによるスマートフォン依存リスク検出の試み」(科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者 7) 一般社団法人日本自動車連盟長野支部との共同研究「長野県をフィールドとした着地型観光プランの作成と情報発信」 8) 花王株式会社感覚科学研究所との共同研究「育児ストレス測定の前連合テスト (IAT) への適用性検証」 9) 「インターネット広告に騙される心理」(信州大学出前講座：おがわ熟年大学、小川村公民館、10月20日) 10) 日本パーソナリティ心理学会奨励賞受賞 (12月3日)

#### 茅野恒秀

- ① 丸山康司・西城戸誠編著『どうすればエネルギー転換はうまくいくのか』(新泉社, 392頁, pp. 83-101 [『土地問題』としてのメガソーラー問題] 執筆) [共著]
- ② 1) 「再生可能エネルギー事業が地域経済・社会に与える効果の社会的測定：長野県中信地域の網羅的調査を通じて」(アサヒグループ学術振興財団『食生活科学・文化、環境に関する研究助成研究紀要』35: 191-201) [単著] 2) 「太陽光発電の社会的受容問題：長野県内の現状から」(『Journal of Japan Solar Energy Society (太陽エネルギー)』48(5): 76-81) [単著] 3) 「グリーンインフラの環境社会的分析視点：環境制御システム論の視点から」(『環境社会学研究』28: 73-88) [単著] 4) 「理論と方法の継承とその自律的展開に向けた課題：海野道郎氏の書評に込めて」(『環境社会学研究』28: 168-171) [共著]
- ⑤ エッセイ「私の森語り」(中部森林管理局広報誌『中部の森林』第215号)
- ⑥ 1) 「太陽光発電の社会的受容問題：長野県内の現状から」(4月19日, 日本太陽エネルギー学会太陽光発電部会第33回セミナー, オンライン) [単独] 2) 「山林開発を伴うソーラー開発の現状と問題点」(7月30日, 林業経済学会シンポジウム「再生可能エネルギーの推進と社会的受容の現状と課題」, オンライン) [単独]
- ⑦ 1) 基調講演「長野県ゼロカーボン戦略と上田地域でできること」(1月7日, 長野県「ゼロカーボンシンポジウム in 信州上田」, 長野県工科短期大学校) 2) 対談「地域の力でシステムチェンジ」(1月22日, 気候 SWITCH「& Climate ワークショップ」, オンライン) 3) 講義「地球温暖化対策の取り組みについて」(1月28日, 南箕輪村議会研修会, オンライン) 4) 講義「地域／循環／共生の意味」(2月7日, 自然エネルギー信州ネット「地域再エネ事業の持続性向上のための地域中核人材育成事業」ワークショップ, 82プラザ長野) 5) 講演「地域に根ざした Sustainable Society の創成」(2月10日, 信州大学「信州大学連携コーディネーター研修」, オンライン) 6) パネリスト「これからの地方大学と地域の連携の在り方、そして地方大学が輩出すべき人材とは？」(2月12日, 文部科学省事業「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業 (COC+R)」全国シンポジウム ワークショップ, オンライン) 7) 講義「エネルギー問題を考える」(3月3日, 第6回島内農業文庫講座, 松本市島内公民館) 8) 講義「エネルギー・トランジションと地域戦略」(3月13日, 飯田自然エネルギー大学, オンライン) 9) コーディネーター「地域ゼロカーボン

に向けて、地域のアクターがどう協働するか?」(3月24日, 大学等コアリション・地域ゼロカーボンワーキンググループシンポジウム, オンライン) 10) 講義「脱炭素社会づくりに向けた地域戦略」(5月25日, 安曇野市議会議員研修会, 安曇野市役所) 11) 講演「バイオマスと脱炭素時代の地域戦略」(6月8日, 長野市バイオマス産業都市構想推進協議会, 長野市リサイクルぷらざ) 12) 基調講演「多様な主体の協働で目指すこれからのまちづくり」(6月29日, (仮称)環境文化都市づくりプラットフォーム キックオフイベント, 飯田市丘の上結いスクエア) 13) コーディネーター「みんなで取り組もうゼロカーボン」(7月3日, 箕輪町ゼロカーボン宣言キックオフイベント, 箕輪町文化センター) 14) 講演「脱炭素まちづくりをはじめよう」(7月18日, 高森町ゼロカーボン学習会, 高森町福祉センター) 15) 講演「脱炭素社会の要請と社会システムの変革」(8月24日, 長野県経営者協会 中信支部8月度例会, ホテルブエナビスタ) 16) 講演「残したい暮らしとは何だろうか?」(9月3日, 乗鞍高原ゼロカーボンラボラトリー, ふれあいパーク乗鞍) 17) 講演「原発事故後の原子力行政/環境行政における課題: 汚染土の処分・再利用問題を中心に」(9月4日, ふくしま復興共同センター学習会, オンライン) 18) 講演「再エネと地域との共生: 脱炭素社会の地域戦略を考える」(9月11日, 群馬県環境アドバイザー連絡協議会温暖化・エネルギー部会「ぐんま5つのゼロ宣言条例と群馬の再エネ」, 共愛学園前橋国際大学短期大学部) 19) 講演「地域からはじまる脱炭素社会」(9月13日, 宮城大学研究・共創フォーラム, 宮城大学+オンラインハイブリッド) 20) 講義「地域循環共生圏をイメージしよう」(9月16日, 自然エネルギー信州ネット「地域再エネ事業の持続性向上のための地域中核人材育成事業」ワークショップ, 佐久平交流センター) 21) 講演「2050ゼロカーボン上田への道」(9月27日, 上田リバース会議, 上田映劇) 22) ファシリテーター「とはいえゼロカーボン、できない理由をあげてみよう!」(10月11日, 上田リバース会議, 上田映劇) 23) コメンテーター「環境・エネルギー」(10月15日, 信州自遊塾講座「大学生と考えるSDGs」, 松本市中央公民館) 24) ファシリテーター「みんなのゼロカーボン会議うえだ」(10月25日, 上田リバース会議, 上田映劇) 25) コーディネーター「飯島町カーボンニュートラル宣言キックオフミーティング」(10月29日, 飯島町文化館) 26) 講義「再エネ導入の壁を乗り越える体制づくり」(10月31日, 環境省「はじめよう!地域再エネセミナー」, オンライン) 27) 講演「脱炭素社会の要請と社会システムの変革」(11月10日, 経営職対象講演会「「測る」の先へ」, 日置電機株式会社) 28) 講演「脱炭素まちづくりをはじめよう」(11月24日, 鹿角青年会議所「はじめてみよう!カーボンニュートラル!!」, 鹿角市コモッセ) 29) 講演「事故由来放射性物質による汚染の広がり」と錯綜する対処」(11月29日, 原子力市民委員会オンライントーク, オンライン) 30) 講義「目標設定と施策の検討ポイント」(11月30日, 環境省北海道地方環境事務所「自治体職員のための地球温暖化対策実行計画(区域施策編)勉強会」, オンライン) 31) トークセッション「地域のゼロカーボンにおける大学の役割」(11月30日, 第8回信州大学見本市, オンライン) 32) パネリスト「地域社会の理解を得た再エネの促進方策はどうあるべきか」(12月5日, 日本弁護士連合会シンポジウム「メガソーラー及びメガ風力が自然環境及び地域に及ぼす影響と対策」, オンライン) 33) 講演「脱炭素社会とまちづくり」(12月11日, サステイナブルなまちづくり井戸端かいぎ, 松本市 SWEET WORK) 34) 基調講演「地域資源を活用した持続可能な地域社会づく

くり」（12月17日、生活クラブ連合会学習会「鬼無里地域の地域資源循環と持続可能な地域社会づくりに向けて」、長野市鬼無里「鬼土間」） 35) 松本平ゼロカーボン・コンソーシアム運営委員長 36) ゼロカーボン社会共創プラットフォーム「くらしふと信州」運営ミーティングメンバー 37) 研究助成「ボトムアップ型の地域脱炭素化戦略構築：「ゼロカーボン集落点検」の手法確立を通じて」（2022～2023年度、公益財団法人旭硝子財団）

前田 豊

- ①数理社会学会数理社会学事典刊行委員会編『数理社会学事典』（「階層帰属意識」 pp. 362-365、「一般化線形モデル」 pp. 592-595執筆）丸善出版、782頁 [共著]
- ②「災害廃棄物の仮置場設置に関わる要因の探索的検討」（『災害復興研究』14：71-82）[共著]
- ⑦ 1）数理社会学会監事 2）第73回数理社会学会大会（信州大学・オンライン）大会委員長 3）『数理社会学事典』編集委員 4）科学研究費補助金基盤研究(C)「事前復興事業における合意形成プロセスの解明」（22K01877）研究代表者

水原俊博

- ②「震災テレビ放送・報道10年の全体像」（『ジャーナリズム＆メディア』17・18号、pp. 7-27）[共著].
- ⑥「ICT化／デジタル化する消費と主観的幸福感——第5回消費とくらしに関する調査(4)」（第95回日本社会学会大会：文化・社会意識(3)、追手門学院大学、11月13日）[単独]
- ⑦ 1）経済社会学会常務理事 2）経済社会学会第58回全国大会プログラム委員長 3）安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員 4）安曇野市「協働のまちづくり」に関する市民アンケート調査（調査協力） 5）公益財団法人八十二文化財団理事 6）放送文化基金 震災映像アーカイブ研究会 研究分担者

今井 章

- ⑥ 1）“Brain activation related to apparent motion illusion.” (The 22nd International Conference on Biomagnetism; 2022.8.28-9.1, Birmingham) [共同] 2）「仮現運動に関連する脳活動の検討」第61回日本生体医工学会大会2022（6月28日、新潟大学）[共同] 3）「VDT課題の背景色が読みに及ぼす影響」日本心理学会第86回大会（9月8日、日本大学＋Webハイブリッド開催）[共同] 4）「点滅刺激が時間知覚へ及ぼす影響」日本心理学会第86回大会発表（9月9日、日本大学＋Webハイブリッド開催）[共同] 5）「ワーケーションが心理・生理反応に及ぼす影響」日本応用心理学会第88回大会発表（9月17日、京都工芸繊維大学＋Web（ハイブリッド開催）[共同]
- ⑦ 1）愛知淑徳大学集中授業講師「視覚生理学演習」（8月30日～9月2日、愛知淑徳大学長久手キャンパス）[共同] 2）「リゾートワーケーションの心理・感情・生理的効果の予備検証と事業化研究」（2022年4月1日～2024年3月31日、株式会社東急不動産 R&D センター、東急リゾート＆ステイ株式会社との共同研究）[共同] 3）「リゾートワーケーションの心理・感情・生理的効果の実証実験」（10月22-24日、東急リゾートタウン蓼科）[共同]



岡本卓也

- ② 1) 「地域効力感尺度の作成と地域活動意図への影響」『信州大学人文科学論集』 9 (2) pp. 53-73 [共著] 2) 「観光者の知識と技能からみた「よい旅」の条件」『国際研究論叢』 36(1) pp. 69-84 [共著]
- ⑥ 1) 「歩くことの社会心理学(3) 反転理論にもとづく散歩の評価」(日本心理学会第86回大会、日本大学、9月8日) [単独] 2) 「歩くことの社会心理学(4) 散歩中の感情状態と精神的健康」(日本社会心理学会第63回大会、京都橘大学、9月14日) [単独] 3) 「観光地域住民による地域観光評価尺度の作成の試み」(第37回日本観光研究学会全国大会、金沢大学、12月18日) [単独]
- ⑦ 1) 「「道」の魅力の解明：歩く旅の心理的機能と地域資源としての「道」」(科学研究費補助金基盤研究(B)研究代表者) 2) 「COVID-19に対する都市レジリエンスと心理レジリエンスの時空間分析」(科学研究費補助金挑戦的研究(萌芽) 分担研究者) 3) 「患者と家族と医療従事者のライフデザインを実現するスマート在宅治療システム拠点」(JST 共創の場形成支援プログラム(地域共創分野・育成型) 分担研究者) 4) 日本心理学会教育研究委員会委員 5) 日本コミュニティ心理学会研究委員会委員

白井真理子

- ② 1) 「Hierarchical memory representation of verbal and nonverbal features for emotion」(『Current Psychology』 1-12) [共著] 2) 「Degree of Meaningfulness of an Event's Ending Can Modulate Mixed Emotional Experiences Among Japanese Undergraduates」(『Perceptual and Motor Skills』 129, 1137-1150) [共著]
- ⑥ 1) 「Color Features Continuously Represent Negative And Positive Aspects Of Sadness」(SPSP 2022 Annual Convention, 2月18日, Hilton San Francisco Union Square&online) [共同] 2) 「涙がストレス緩和に及ぼす影響—主観的流涙量に着目して—」(第40回日本生理心理学会大会・日本感情心理学第30回大会, 5月28日, 関西学院大学) [共同] 3) 「悲しみエピソードの世代間比較—ネットワーク分析を用いて—」(日本心理学会第86回大会, 9月9日, 日本文理大学(対面+Web開催)) [共同] 4) 「ワーケーションが心理・生理反応に及ぼす影響」(日本応用心理学会第88回大会, 9月17日, 京都工業繊維大学) [共同]
- ⑦ プレカンファレンスB (日本生理心理学会・日本感情心理学会 若手合同企画) 「われわれは測りたいものを測れているか?—今後10年間の感情の主観・生理指標の測定に向けて—」企画者(第40回日本生理心理学会大会・日本感情心理学第30回大会, 5月27日, 関西学院大学) [共同]

高瀬弘樹

- ⑥ 「仮現運動に関連する脳活動の検討」(日本生体医工学会関東支部若手研究者発表会2022, 12月10日, 中央大学) [共同]
- ⑦ 公益社団法人才能教育研究会との共同研究「プロのヴァイオリニストの演奏は、アマチュアと何が違うのか?—プレリミナリー・スタディー—」(2018年9月1日~2023年8月31日)

松本 昇

- ② 1) 「自伝的記憶の構造と測定課題」(『認知心理学研究』19(2), 39-57) [単著] 2) 「トラウマティックなライフイベントについての出来事中心性尺度日本語版の作成」(『心理学研究』93(1), 32-42) [単著] 3) 「短縮版多次元衝動的行動尺度日本語版 (SUPPS-P-J) のさらなる妥当性の検証」(『パーソナリティ研究』31(2), 112-121) [共著] 4) 「エピソード科学：記憶研究の新たな視点」(『認知心理学研究』20(1), 43-56) [共著] 5) Subjective judgments on direct and generative retrieval of autobiographical memory: The role of interoceptive sensibility and emotion. *Memory and Cognition*. [共著] 6) Direct retrieval bias for general and specific memories for negatively-valenced cues in major depression. *International Journal of Psychology*, 57(5), 577-584. [共著] 7) Development of a Japanese Version of the Autobiographical Recollection Test: Convergent Validity with Self-Reported Scales and Memory Details. *Memory*, 30(10), 1227-1239. [共著] 8) Autobiographical memory specificity and mnemonic discrimination. *Journal of Memory and Language*, 127, 104366. [共著] 9) Schema-driven involuntary categoric memory in depression. *Cognitive Therapy and Research*. <https://doi.org/10.1007/s10608-022-10329-6> [共著] 10) Cognitive reactivity amplifies the activation and development of negative self-schema: A revised mnemonic neglect paradigm and computational modelling. *Cognitive Therapy and Research*. <https://doi.org/10.1007/s10608-022-10332-x> [共著] 11) 1. Matsumoto, N., Takahashi, Y., & Hallford, D. J. (2022). Different retrieval mechanisms of overgeneral autobiographical memory for positive and negative cues in remitted Major Depressive Disorder. *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*. [共著]
- ⑥ 1) Accessibility account of overgeneral autobiographical memory. *MEMPSI*. Demark (Aarhus University, 9月13日) [単独] 2) 「恐怖条件づけにおける学習曲線の記述と分類」(日本行動分析学会第40回年次大会、福岡県立大学、オンライン、9月25-30日) [共同]
- 3) The effect of nostalgic music on future thinking. *Autobiographical Memory in Ageing and Dementia*. Demark (Aarhus University, 9月27日) [共同] 4) 「実験課題の利点と臨床応用 “実験研究の魅力と意義：認知臨床心理学をもっと CBT に活かしたい”」(指定討論者、日本認知・行動療法学会第48回大会、宮崎大学、10月2日) [単独] 5) Accessibility account of overgeneral autobiographical memory (第20回東海若手実験心理学研究会、名古屋大学、オンライン、10月29日) [単独] 6) Directly and involuntarily retrieved general categoric memories and depression: Current findings and future directions. *Autobiographical Memory and Psychopathology Conference* (Deakin University, オンライン、11月17日) [共同] 7) 「大学院ライフハック：睡眠・食事・麻雀」(パーソナリティ心理学会 YPP2022、オンライン、11月27日) [単独]
- ⑦ プレスリリース「人文学部・松本昇准教授らのグループがネガティブな自己概念の形成と更新に関する研究を発表しました」(信州大学人文学部HP、10月17日) [共同]

大串潤児

- ① 『国策紙芝居一地域への視点, 植民地の経験』(御茶の水書房、全91頁) [編著]

- ②「戦争の時代と災害—1941年赤沼地域・再考」(『長野市立博物館紀要 人文系』第23号、1～15頁) [単著]
- ⑤「書評 総合女性史学会編『ジェンダー分析で学ぶ女性史入門』(岩波書店、2021年)」(総合女性史学会『総合女性史研究』第39号、45～50頁) [単著]
- ⑥ 1)「歴史教育と沖縄史・「南洋群島」／ミクロネシア地域史」(沖縄国際大学南島文化研究所第31回南島研セミナー「沖縄にとっての「南洋群島」経験—ミクロネシアと共有し、継承するために」、2月10日、Zoom) [単独] 2)「試験問題批評とは何だろうか」(高大連携歴史教育研究会第4部会第2回研究会、5月15日、Zoom) [単独] 3)「歴史教科書と植民地—日本の事例」,「피식민자의 관점에서 역사 서술은 가능한가?—각 국 교과서의 제국주의·식민지·전쟁 기술 비교」(アジア平和と歴史研究所：国際学術会議、大韓民国ソウル特別市、8月13日、Zoom) [共同] 4)「『歴史総合』から『日本史探究』へ—「問い」と「通史」のあいだ」(神奈川県高等学校社会科研究会：日本史サマーセミナー、横浜翠嵐高校、8月20日) [単独] 5)「『国民的歴史学運動』論の切実さとは何か？」(日本史研究会・京都民科歴史部会・部落問題研究所合同研究会、キャンパスプラザ京都、8月27日) [単独]
- ⑦ [社会活動] 1) 国立歴史民俗博物館展示リニューアル委員会・委員 2) 飯田市歴史研究所顧問研究員 3) 神奈川大学常民文化研究所非文字資料研究センター客員研究員 4) 長野県立大学非常勤講師(2022.10.1～) 5) 立教大学文学部非常勤講師(2022.10.1～) 5) 長野市立博物館運営協議会委員(2021.4.1～) 6) 長野県教育研究集会分科会共同研究者 [講演など] 1)「戦時戦後の大衆文化・紙芝居と演芸会—地域での担い手、民衆の欲望」(東海大学史学会、東海大学文学部(平塚市)、6月25日) [単独] 2)「地域社会と「人間らしさ」のゆくえ—木崎争議と木崎村の歴史を考える視点」(新潟市北区郷土博物館企画展「生活の向上を求めた小作農民と地主眞島桂次郎展」関連講演、新潟市北区豊栄地区公民館、7月2日) [単独] 3)「野良に叫ぶ!—大衆化のなかの社会運動」(横浜翠嵐高校講義、10月15日) [単独] 4)「上原と語りあっていたのは誰だろうか?—等身大の上原良司へ」(穂高西中学校講演、10月24日) [単独] 5)「相手を理解するということ—上原良司の思想を手がかりに」(安曇野市公文書館「今、安曇野から平和を思う」基調講演、安曇野市堀金公民館、11月20日) [単独] [その他] 1)「はじめに」(飯田市歴史研究所『生存の地域史を語る Oral history-3』、飯田市歴史研究所) [単著] 2)「教科書執筆にあたって『精選日本史探究』」(『じっしょう 地歴・公民科資料』No.92) [単独] 3)「『小さなもの』たちが問い続ける「戦争の時代」—「平和の文化」を築く・『平和の種』創刊100号」(『ニュースレター 平和の種』第100号) [単著] 4)『講談社の動く図鑑 MOVE 日本の歴史』(講談社、全384頁、[近現代史部分監修])

#### 豊岡康史

- ① 1)『東洋文庫所蔵『潯関奏檔』『潯関貢摺』影印・解説：清朝嘉慶年間の九江関』(新潟大学人文社会科学系研究プロジェクト「近世・近代環東アジア地域における都市ネットワークに関する社会動態史研究」、242頁) [共編著] 2)『アジア人物史 7 近世の帝国の繁栄とヨーロッパ』(「海と草原の明清交代：鄭氏台湾と康熙帝」pp. 543-599を分担執筆) 集英

社、808頁〔共著〕

② 1)「嘉慶四（1799）年九月前半上諭の訳注及び考察：清朝嘉慶維新研究序説」（『信州大学人文科学論集』9(2)、75-87）〔共著〕 2)「嘉慶四（1799）年九月後半上諭の訳注および考察(2)清朝嘉慶維新研究序説」（『環日本海研究年報』27、85-102）〔共著〕

⑥ 1)「南シナ海貿易と中国経済：成果と課題」（第91回社会経済史学会全国大会、パネル「海域アジア経済史の回顧と展望」@ Zoom、5月1日、当該パネルオーガナイザーも担当）〔単独〕 2)「“切勿輕開邊釁”：嘉慶四年的對外姿態（切に軽々しく辺釁を開くなかれ：嘉慶四年の對外姿勢）」（「2022内亞與海洋：明清中央檔案、地方文書及域外史料」國際研討會@ Webex、12月2日）〔単独〕

⑦ 1) 科学研究費補助金「清朝史の再構築：人口構造・国際関係と政策基調についての総合的研究」（基盤研究(B)、22H00701、2022-2026年）研究代表者

山本英二

②「書評・関口博巨著『近世村落の領域と身分』」（『日本歴史』第889号、pp.97-99）〔単著〕

⑦ 1) 家康伝承調査事業講演会講師「近世の歴史的記憶と由緒—徳川家康と武田信玄をめぐって—」（静岡県浜松市、浜松市地域情報センター、2月12日）〔単独〕 2) 2021年度後期講座講師・第4～5回「古記録から読み解く日本史」（愛知県名古屋市、栄中日文化センター、2月18日・3月25日）〔単独〕 3) 2022年度前期講座講師・第1～5回「時代劇から考える日本史」（愛知県名古屋市、栄中日文化センター、4月15日・5月20日・6月17日・7月15日・9月15日）〔単独〕 4) 長野県立歴史館古文書愛好会発足20周年記念講演会講師「古記録を読み解く—松本藩主日記『御事実綱領』を事例に一」（長野県千曲市、長野県立歴史館、7月30日）〔単独〕 5) 北海道大学文学部1学期集中講義非常勤講師「日本史 近世の由緒と偽文書」 6) 徳川林政史研究所特任研究員 7) 関東近世史研究会評議員 8) 国史学会評議員 9) 信州資料ネット代表 10) 人間文化研究機構・国文学研究資料館共同研究員 11) 人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館運営会議委員

磯部美穂

⑥ 1)「文の作成過程における前域文成分の選択傾向について」（日本独文学会北陸支部研究発表会、2月19日、金沢大学サテライト講義室）〔共同〕 2) „Effektive Anwendung von Übersetzungs-Tools im Sprachunterricht Deutsch als Fremdsprache für japanische Deutschlerner\*innen“, (XVII. Internationale Tagung der Deutschlehrerinnen und Deutschlehrer, 19.08.2022, Wien)〔単独〕

伊藤加奈子

②「“楼”は建物かアパートか？—場所表現についての日中対照」（『信州大学人文科学論集』第9号第2冊、pp.89-119）〔単著〕

氏岡真士

- ② 1) 「鍾批《水滸》與三十卷本」(『信州大学人文科学論集』第9号第2冊、121-137頁) [単著] 2) 「続『杜騙新書』の国立国会図書館蔵抄本について」(『信州大学総合人間科学研究』第16号、161-196頁) [共著] 3) 「三多斎刊本『水滸後伝』について」(『中国古典小説研究』第24号、1-21頁) [単著] 4) 「“英雄譜” 又名《三國水滸全傳》二考」(『信州大学人文科学論集』第10号第1冊、49-66頁) [単著]

葛西敬之

- ② 「ドッベルゲンガーの恋—ローベルト・ヴァルザー『盗賊』と長編小説を書くということ」(『信州大学人文科学論集』第9号(第2冊)、139-149) [単著]
- ⑥ 1) 「R. ヴァルザー『散歩』と Th. ベルンハルト『行く』—二つの歩行する散文の接点と分岐点」(戦後オーストリア文学研究会第4回コロキウム、オンライン開催、3月26日) [単独] 2) 「ローベルト・ヴァルザーにおけるリアリズムの問題について」(日本独文学会北陸支部研究発表会、福井県教育センター、11月19日) [単独]
- ⑦ 日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究)「ローベルト・ヴァルザーにおける「現実」と「虚構」の位置価」(課題番号: 21K12961) 研究代表者

鎌田 隆行

- ② 1) 「バルザックの *oeuvres diverses* の諸問題」(信州大学『人文科学論集』第9号(第2冊)、p. 151-161) [単著] 2) 「『県のミューズ』——断片とアクチュアリティー」(信州大学『人文科学論集』第10号(第1冊)、p. 67-85) [単著] 3) « Introduction » [Dossier « Balzac en collaboration »], *L'Année balzacienne*, 2022, p. 17-24 [単著] 4) « Les interventions de Charles Rabou dans *Les Petits Bourgeois* », *L'Année balzacienne*, 2022, p. 209-222 [単著]
- ⑥ 1) « Présentation: *Dictionnaire Balzac* », Les Amis de Balzac, 2月12日, @ Zoom [共同・国際] 2) 「*Dictionnaire Balzac* の展望」(合同バルザック研究会、6月4日、立教大学) [単独] 3) ワークショップ「作家事典のダイナミズム」(日本フランス語フランス文学会秋季大会、10月23日、大阪大学) [共同] 4) « La génétique balzacienne et la question de l'inachèvement » (国際シンポジウム « Balzac et les voies de la critique », 11月17日、フランス・パリ高等師範学校) [単独・国際]
- ⑦ 1) マルティヌ・リード「フェリシテ・ド・ジャンリスの生涯と作品案内」(信州大学人文学部多文化交流サロン、2月1日、講演会コーディネート・通訳) 2) クレール・フォヴェルグ「『百科全書』における「哲学精神」から「哲学史」へ、そしてその先へ」(信州大学国際シンポジウム2022「アンシャン・レジームから近代へ、そしてその先へ—文学と哲学—」、12月10日、シンポジウム司会) 3) 科学研究費補助金(基盤研究C)「バルザックにおける共作の生成論的研究」(研究課題番号18K00474) 研究代表者(2018年度～2021年度) 4) 科学研究費補助金(基盤研究C)「バルザックの作品の題名学的研究」(研究課題番号22K00464) 研究代表者(2022年度～) 5) Groupe International de Recherches Balzaciennes (国際バルザック研究会) 執行部メンバー(2008年3月～) 6) パリ第8大



学出版会叢書「Manuscripts modernes」アドヴァイザリーボード委員（2014年5月～） 7）  
 パリ・ディドロ大学ジャック・セバシェール研究センター客員研究員（2015年12月～） 8）  
 クラシック・ガルニエ社「Revue Balzac」編集委員（2016年11月～） 9）日本フランス語  
 フランス文学会中部支部幹事（2020年4月～）

渋谷 豊

- ②「太平洋戦争期の日本におけるフランス文学受容：その一」（『信州大学人文科学論集』第10号（第1冊）、p.87-105）[単著]  
 ⑤「書評 趙怡著『二人旅 上海からパリへ—金子光晴・森三千代の海外体験と異郷文学』（関西学院大学出版会、二〇二一年）」（『比較文学』第64巻、p.135-138）[単著]  
 ⑦1）「選評」（『文藝譜（長野県文芸コンクール入賞作品集）』第11輯、p.26-28）[単著]  
 2）科学研究費補助金基盤研究(C)「近代文学における地球の表象—吉江喬松を中心に」（課題番号20K00518）研究代表者 3）科学研究費補助金基盤研究(C)「世界戦争とナショナル・アイデンティティ—アジア太平洋戦争期の他者体験と文学言説」（課題番号20K00323）研究分担者

吉田正明

- ①『フランスの子どもの歌Ⅱ 50選 一読む楽しみ』（三木原浩史・吉田正明共著、鳥影社、346頁）[共著]  
 ⑦1）「シャンソン研究会 News」（『シャンソンマガジン』2022年夏号 Vol. 64） 2）シャンソン研究会代表（第36回シャンソン研究会主催、11月19日、信州大学人文学部） 3）長野日仏協会会長

Ash Leigh Spreadbury

- ②1）「X they said Y they said as a sarcastic multi-sentential construction」（山梨正明編『認知言語学論考No.16』ひつじ書房、pp.137-166）[単著] 2）「Fictive interaction in humorous YouTube comments: A preliminary investigation」（『藝文研究』第122号、pp.27-40）[単著]  
 ③Tetsuya Kunihiro, “Cognition and linguistic expressions”（『言語研究アンソロジー』第2号、pp.99-114）[単訳]

伊藤 晝

- ①J. R. R. トールキン著『最新版 指輪物語』文庫版1～6（瀬田貞二・田中明子共訳、伊藤晝・沼田香穂里編集協力、評論社、500・552・552・424・440・408頁）[共同改訂]  
 ②（例会報告）「北欧神話・ルーン文字・アイスランド：記録と伝承を21世紀に繋げる」（北欧文化協会『宇宙樹』No.299、pp.1-2）[単著]  
 ⑤「『最新版指輪物語』カナ表記改訂の解説」（『最新版 指輪物語』文庫版 1巻、評論社、pp.623-631）[単著]  
 ⑥1）「Loki the Blood-Sibling of Óðinn in Japanese Interpretations: A Lean and Lithe,

Philosophical and Mutable, Father-Mother Figure of Monsters」18<sup>th</sup> International Saga Conference, Helsinki & Tallinn（8月12日、University of Tallinn）[単独] 2）「オープニング・スピーチ：日本における最近のアイスランド研究について」（日本アイスランド学会、9月18日、駐日アイスランド大使館）[単独] 3）「Loki the Blood-Sibling of Óðinn in Japanese Interpretations: A Lean and Lithe, Philosophical and Mutable, Father-Mother Figure of Monsters, Revisited」（日本アイスランド学会、9月18日、駐日アイスランド大使館）

⑦ 1）（講演）「北欧神話・ルーン文字・アイスランド」（北欧文化協会、4月16日、オンライン）[単独] 2）（講演）「J. R. R. トールキンのエルフとファンタジーの世界① J. R. R. トールキンの人生と作品：言語創造からおとぎばなし、そしてファンタジーへ」（朝日カルチャーセンター新宿校、4月25日）[単独] 3）「J. R. R. トールキンのエルフとファンタジーの世界② ホビットの物語が起こした奇跡」（朝日カルチャーセンター新宿校、5月23日）[単独] 4）（講演）「J. R. R. トールキンのエルフとファンタジーの世界③ 神話／伝説の創造と想像された世界像」（朝日カルチャーセンター新宿校、6月27日）[単独] 5）（講演）「The Lord of the Rings と『ロード・オブ・ザ・リング』：ファンタジーと科学のシンワ性（東京理科大学神楽坂キャンパス、7月14日）[単独] 6）（講演）「英語でたのしむおはなし会」（塩尻市えんぱーく内塩尻市図書館、11月3日）[単独] 7）（講演）「英語おはなしの会」（松本市中央図書館、1～7・9～12月各第2火曜日）[単独] 8）（インタビュー記事）川端裕人「バイキング・北欧神話・トールキン：研究者伊藤盡 信州大学人文学部」（『ナショナル・ジオグラフィック 日本語版』Web版「めくるめく知のフロンティア：研究室に行ってみた。」、8月11～18日） 9）科学研究費補助金基盤研究(C)「J. R. R. トールキン『ベオルフトノスの帰還』創作過程研究」（課題番号22K00376）研究代表者

杉野健太郎

⑥ 招待講演「『オズの魔法使』と封じ込めの戦略——アダプテーション研究の可能性」（日本映画学会例会、6月26日、オンライン）[単独]

⑦ 1）学会講演記録「『オズの魔法使』と封じ込めの戦略——アダプテーション研究の可能性」（『日本映画学会第11回例会報告集』、10月1日、12-19）[単独] 2）長野清泉女学院大学アカデミック・専門職講座「米国文学を読む～20世紀から21世紀にかけて」（1月21日・3月4日） 3）学会役員：日本映画学会会長・顧問／日本スコット・フィッツジェラルド協会会長／日本英文学会中部支部理事／サウンディングス英語英米文学会評議員・学会誌編集長

趙 泰晃

② 「中英語ロマンスにおける異教徒の改宗と信仰の証明」（『信州大学人文科学論集』第9号第2冊、163-182）[単著]

⑥ Thae-Ho JO 「Symbolic Armor and the Performativity of Racial-Religious Identity in Middle English Romance」, (The 57th International Congress of Medieval Studies, 5月9日, Online) [単独]

- ⑦ 1) 科学研究費補助金（若手研究）「中英語ロマンス文学における宗教の表象研究：Saracenの表象を中心に」（課題番号：20K12960）研究代表者 2) 科学研究費補助金（基盤研究C）「中英語ロマンス文学に描かれる東方への旅とアイデンティティの形成」（課題番号：22K00425）研究代表者 3) 慶應義塾大学・明治大学非常勤講師

中澤光平

- ① Hiroyuki SUZUKI, Mika FUKAZAWA, Akiko YOKOYAMA, Mitsuaki ENDO（編）『Linguistic Atlas of Asia and Africa Volume 1』（Studies in Geolinguistics, Monograph Series, No. 3、日本地理言語学会、282頁、「Subgrouping of Japonic」（p. 5）、「‘Mouse/Rat’ in Japonic」（pp. 34-36）、「‘Chicken’ in Japonic」（pp. 78-80）、「‘Horse’ in Japonic」（pp. 124-132）、「‘Dog’ in Japonic」（pp. 171-173）、「‘Wolf’ in Japonic」（pp. 215-217）、「‘Bear’ in Japonic」（pp. 244-246）を共同執筆）[共著]
- ② 1) 「与那国方言の音韻変化と形態変化」（『国立国語研究所論集』22、89-111）[単著] 2) 「南琉球八重山語宮良方言の名詞アクセント資料」（『国立国語研究所論集』22、157-176）[共著] 3) 「岡山県備前市日生方言のアクセント資料」（『日本語学論集』18、187-210）[単著] 4) 「日琉方言の命令・禁止表現（調査報告）」（『日本語学論集』18、126-186）[共著] 5) 「日琉諸語の記述言語学を対象としたメタ研究の試み—南琉球諸語の過去40年間の語彙研究の評価と課題—」（『国立国語研究所論集』23、75-98）[共著] 6) 「南琉球与那国方言の撥音化と喉頭化音化」（『東京大学言語学論集』44電子版、80-101）[単著]
- ⑥ 1) 「南海道諸方言の系統関係試論」（第3回ヤポネシアゲノムくうみミーティング、3月16日、淡路夢舞台国際会議場）[単独] 2) 「Crop terms in Japonic」（「アジア・アフリカ地理言語学研究」2021年度第2回研究会、3月19日、オンライン）[共同] 3) 「八重山語のもう1つの3型アクセント体系の発見：小浜方言の韻律体系に関する調査報告」（第240回NINJALサロン、6月7日、オンライン）[共同] 4) 「琉球祖語における非狭母音 \*e, \*o の再建の再検討」（日本言語学会第164回大会、6月19日、オンライン）[単独] 5) 「A proto-Ryukyuan Database: an aggregating model of dialectal lexical data」（Methods in Dialectology XVII、8月4日、マインツ）[共同] 6) 「高知方言における文末詞 ga による無核化とアクセント単位」（第36回日本音声学全国大会、9月25日、神戸学院大学）[単独] 7) 「京阪系アクセントにおける式音調の音声変種」（「日琉語族内的声調類型論の再構築」2022年度第3回研究会、11月23日、オンライン）[単独]
- ⑦ 1) 日本学術振興会科学研究費（新学術領域研究（研究領域提案型））「南海道諸方言の歴史言語学的研究と方言形成時期の推定」（課題番号：21H00354）研究代表者 2) 日本学術振興会科学研究費（若手研究）「日本語諸方言の接触地域における系統関係の解明」（課題番号：21K12993）研究代表者

山田健三

- ② 「近代におけるカタカナ先習について—日本語書記モード史研究のために—」（『信州大学人文科学論集』第9号第2冊、195-207頁）[単著]
- ⑥ 1) 「仮名を見直す」（招待講演。広島大学日本語研究会主催公開研究発表会「日本語史研

究の新しい視座」1月23日、オンライン開催) 2)「仮名の歴史を再考する」(ワルシャワ大学「国際会議:日本伝統文化と文学—形、イメージ、言語」10月17日、オンライン開催)  
⑦1) 信大日本語学夏季セミナー主宰(9月13日~15日、公開セミナー) 2) 名古屋大学  
国語国文学会査読委員(6月~7月) 3) 北海道大学大学院文学研究院楡文叢書候補原稿  
査読委員(2021年~2022年) 4) 科学研究費補助金基盤研究(C)「近代日本語史における  
「ひらがな」を中心とする文字認識論的研究」(課題番号20K00643) 研究代表者

渡邊匡一

④1) 企画展示「書物で繙く善光寺参り」(5月16日~6月30日, 信州大学附属図書館中央  
図書館)[制作・監修]  
⑦1) 仏教文学会委員(平成22年4月~令和5年3月) 2) 説話文学会委員(令和元年10  
月~令和5年9月) 3) 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)「真言宗寺院にお  
ける中・近世期の学問展開に関する基礎的研究」(課題領域番号:17K02412) 研究代表者  
4) 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)「真言宗寺院における中・近世期の学  
問形態の変容に関する文献学的研究」(課題領域番号:22K00291) 研究代表者

